

2025.11

蔵王町

●面積：152.83km²
●人口：10,456人
(令和7年9月、推計人口)



西方に蔵王連峰を望み、温泉やスキー場、蔵王国定公園の紅葉を求めて多くの観光客が訪れる自然豊かな町。梨などの果実や乳製品が全国的にも人気です。

写真：蔵王連峰（筆者撮影）

1 概況 ～東北の秀峰・蔵王連峰、緑豊かな大地に恵まれた農業・観光のまち 蔵王町～

蔵王町は、宮城県の南西部に位置し、西は蔵王連峰を境に山形県上山市に接しています。町内の標高差は大きく(最高点は屏風岳の1,825m、最低点は東南部の松川と白石川の合流点の20m)、面積の約60%を山林原野が占めますが、東部は良好な水田地帯であり、丘陵地を利用した果樹栽培は県下の生産量を誇ります。蔵王高原のチーズなどの乳製品は、品質の良さから全国的に人気があります。町の西部は蔵王国定公園・蔵王高原県立自然公園に含まれ、県内有数の名湯・遠刈田温泉などが観光拠点となっています。町の中央を流れる松川が、美しい渓谷の景観を作り出しており、蔵王連峰に連なる高原地帯には貴重な野鳥などが生息し、自然の宝庫となっています。

明治22(1889)年の町村制施行により宮村、円田村が発足、昭和30(1955)年に両村が合併、蔵王連峰の一部を有しているため、蔵王町(ざおうまち)となりました。

町内には、みやぎ蔵王えびリゾート、すみかわスノーパークなど県を代表するスキー場があり、秋の紅葉のシーズンや、残雪の壁が見られるゴールデンウィークなどには、美しい景色を一目見ようと、蔵王エコーラインに多くの観光客が訪れます。蔵王町は、東北自動車道や東北新幹線などの交通の利便性を活かしつつ、上述の農業及び観光に加え、高付加価値産業の振興を進め、新たな時代へ向けた発展の好機を迎えています。

2 基本情報 ～「蔵王ブランド」を後世につなぐためのまちづくりを展開～

蔵王町の面積は、県内35市町村中14位となる152.83km²です。人口は、蔵王町が誕生した昭和30(1955)年には16,584人を記録しましたが、それ以降緩やかな減少傾向にあります。直近の令和7(2025)年9月の推計人口は10,456人、県内では28位です。

蔵王町における町内での通勤・通学者の比率は53.7%と半数を超えるものの、仙台市等への流出が多く、昼夜間人口比率は97.42(令和2年国勢調査、県内14位)であり、昼間人口の流出を防ぐため、町内に更に魅力ある事業所の確保や、町外からの人材の流入が必要といえます。

今後の人口について、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)によると、令和32(2050)年の人口は6,916人^[1](対令和2(2020)年比▲39.4%)まで大幅に減少すると推計されています。高齢者(65歳以上)人口比率は、令和2(2020)年で既に38.3%(県平均28.1%)に達していますが、同推計では、令和32(2050)年には52.6%にまで大きく上昇すると見込まれています。

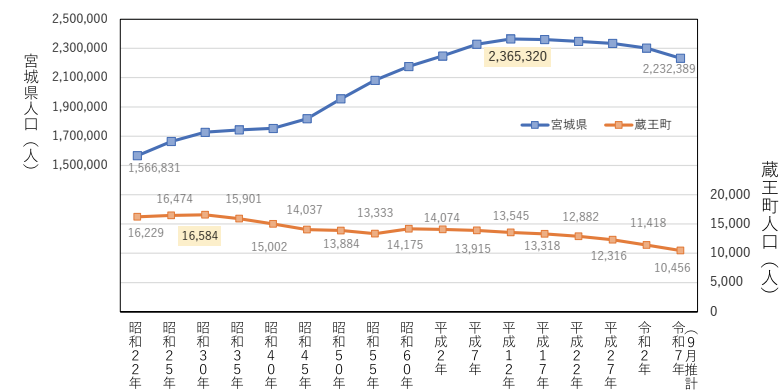
同様に経済活動を主に担う生産年齢(15～64歳)人口比率は、令和2(2020)年の51.4%(県平均60.2%)から令和32(2050)年には40.6%に低下、人数では半数以下に減

少するものと推計されています。

蔵王町では、人口減少及び少子高齢化が進む中、平成30(2018)年度から令和9(2027)年度までの10年間を計画期間とする「第五次蔵王町長期総合計画」に基づき、まちづくりが進められています。本計画では、まちの未来像として「**ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおう**」を掲げ、①健やかなまちづくり(保健・医療・福祉)、②学び楽しむまちづくり(教育・文化・スポーツ)、③美しい快適なまちづくり(環境・生活基盤)、④活気あるまちづくり(産業)、⑤共に創るまちづくり(町民参加・安全・行政運営)の5つをまちづくりの基本方針としています。これからどんな時代が来ようとも「やっぱり蔵王が一番」と言えるような、憧れのまち・蔵王を目指し、蔵王をブランド化することで、まちの魅力を未来に発信することを目指しています。

また、蔵王町の取り組みのなかで特筆すべきは、「国際的なまちづくり」が積極的に進められている点です。総合計画においても、英語教育・国際交流の推進、インバウンドの受け入れ体制の整備・誘致促進に重きを置いています。特に英語教育では、「英語教育特区」の指定を受け、幼稚園、小学校の段階から楽しく英語に親しむ活動を導入し、小学校1年生から専科教員による「オールイングリッシュ」

図表1 宮城県と蔵王町の人口推移



資料：総務省統計局「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

の授業が行われているなど、指導体制の充実も図っています。教育委員会が町内の小中学校の特別の教育課程(ざおう英語活動)について毎年度実施状況を把握・検証し、より良い英語教育を進めています。英語教育は、観光資源が豊富な蔵王町にとって、インバウンド獲得に大きな力を持つと思われます。蔵王町で英語力の研鑽に励んでいる小中学生が、将来蔵王町の観光の一翼を担う存在になることが期待されます。少子高齢社会が進む中で、蔵王町の持つ人材や観光資源をいかに将来に繋いでいくかが、人口減少対策ひいては地域活性化への取り組みの鍵となるでしょう。

3 産業の状況

(1) 町内総生産 ～製造業が牽引、農業や宿泊・飲食サービス業も強い～

令和4(2022)年度の蔵王町の町内総生産額(図表2)は467億円で、県内24位(人口一人当たりでは県内8位)です。全体の25.3%を占め118億円と最多の「製造業」が蔵王町の産業の強みであることがわかります。

また、産業別生産額の構成比を宮城県全体と比較すると、蔵王町の構成比が宮城県の構成比を上回る産業は、「製造業」「農業」「宿泊・飲食サービス業」等となっています。このように「製造業」や「農業」に加え、「宿泊・飲食サービス業」も、蔵王町の主要な産業であるといえます。

さらに、蔵王町の直近12年間の町内総生産額の推移(図表3)を見ると、第一次産業及び第三次産業は比較的安定して推移しているものの、「製造業」を含む第二次産業の増減が、総生産額全体に反映しています。平成23(2011)年の441億円から翌年の平成24(2012)年には415億円に落ち込みましたが、その後緩やかに増加、平成30(2018)年には526億円を記録、その後はコロナ禍の影響も見られます。

町内総生産額の業種別対前年度比の推移(図表4)を見ると景気変動に敏感な「製造業」やコロナ禍の影響に

よる「宿泊・飲食サービス業」の対前年度比の変動幅が大きいことが分かります。なお、町内総生産額が連続でマイナスを記録した年は、コロナ禍の令和元(2019)～2(2020)年度のみでした。令和3(2021)年度及び令和4(2022)年度は対前年度比で増加しており、今後も「製造業」をはじめとする町内産業の成長が期待されます。

図表2 蔵王町の産業別町内総生産額（令和4年度）

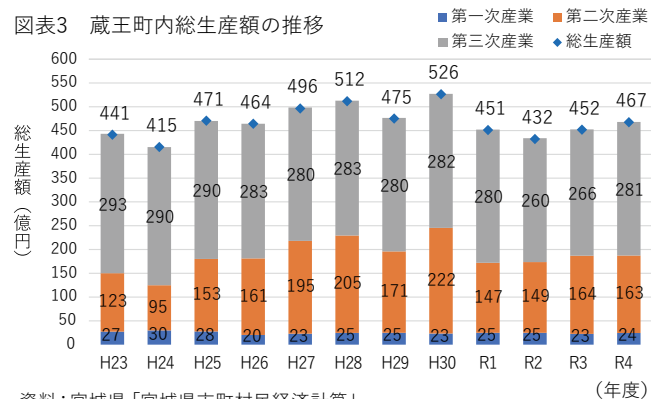
	実額（億円）		構成比（％）		
	蔵王町	宮城県	蔵王町 (a)	宮城県 (b)	(a-b)
第一次産業	24	1,392	5.2	1.4	3.8
農業	23	811	5.0	0.8	4.1
林業	1	66	0.2	0.1	0.2
水産業	0	515	0.0	0.5	-0.5
第二次産業	163	20,717	34.9	21.5	13.3
鉱業	8	156	1.8	0.2	1.6
製造業	118	14,749	25.3	15.3	10.0
建設業	37	5,812	7.8	6.0	1.8
第三次産業	281	74,172	60.1	77.1	-17.1
電気・ガス・水道業・廃棄物処理業	16	2,151	3.4	2.2	1.1
卸売・小売業	40	15,456	8.5	16.1	-7.6
運輸・郵便業	34	4,931	7.3	5.1	2.1
宿泊・飲食サービス業	21	1,581	4.4	1.6	2.8
情報通信業	6	2,948	1.2	3.1	-1.9
金融・保険業	6	3,337	1.4	3.5	-2.1
不動産業	65	11,982	14.0	12.5	1.5
専門・科学技術、業務支援サービス業	9	9,188	1.9	9.6	-7.7
公務	24	5,823	5.1	6.1	-1.0
教育	13	4,120	2.7	4.3	-1.5
保健衛生・社会事業	27	8,954	5.9	9.3	-3.5
その他のサービス	20	3,701	4.4	3.8	0.5
総生産額	467	96,147	100.0	100.0	0.0

資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」
(注) 税加除等により各業種の計と合計は一致しない

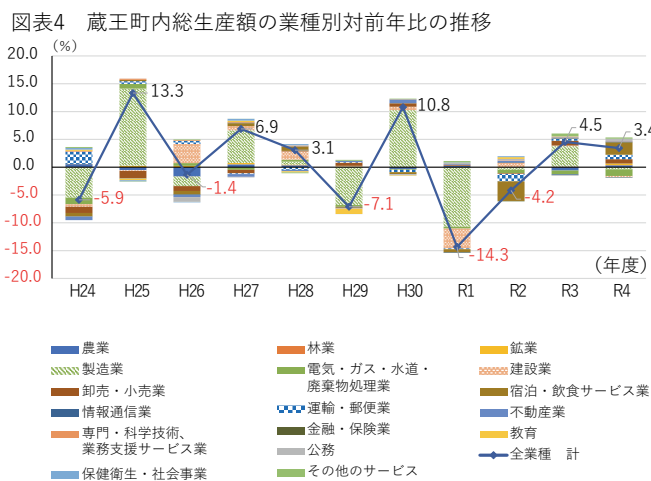
(2) 産業構造 ～製造業が牽引しつつ、観光を担う宿泊業・小売業も稼ぐ力が強い～

図表5・図表6は、蔵王町の産業構造を把握するために、従業者数による特化係数^[2]を算出し、産業別の従業者数とともに表示したものです。図表5において、従業者数が最も多く、かつ特化係数が1を超えている業種(大分類)は「製造業」で従業者数1,624人、特化係数2.04となっています。図表6は、従業者数が多い「製造業」等について、さらに業種別を細分化し、主要な業種を表示したものです。製造業の中でも「飲料・飼料等製造業」の特化係数が39.78と高く、特に「稼ぐ力の高い産業」であるといえます。

また、図表5において製造業に次いで従業者数が多く、特化係数が高い業種(大分類)は「建設業」で従業者

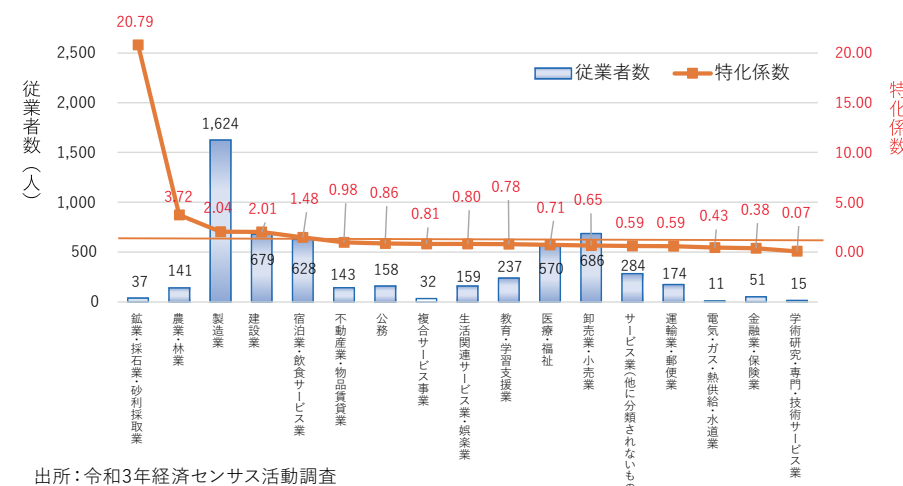


資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」
注：関税等の加除があるため各産業の計と総生産額は一致しない



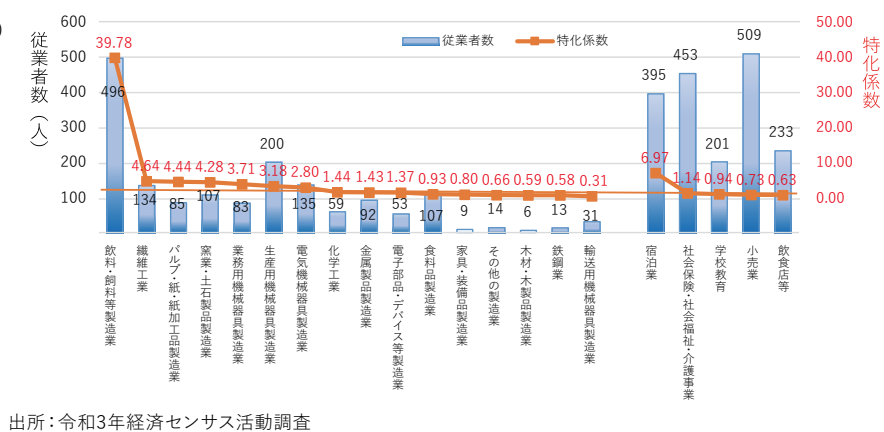
資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

図表5 蔵王町の業種別(大分類)特化係数と従業者数(2020年)



出所：令和3年経済センサス活動調査

図表6 蔵王町の製造業と主要業種(中分類)の特化係数と従業者数(2020年)



出所：令和3年経済センサス活動調査

(3) 観光 ～コロナの収束に伴い、インバウンドもターゲットに回復を目指す～

図表7では、蔵王町の観光客入込数と宿泊観光客数の推移を示しています。東日本大震災が発生した平成23(2011)年と、コロナによる影響が大きかった令和2(2020)～令和4(2022)年は観光客数が大きく落ち込みましたが、令和5(2023)年はコロナ禍前の令和元(2019)年の80.4%まで回復しました。今後、コロナ禍以前の水準への回復が期待されます。

図表8は、四半期別観光客入込比率を示したもので、蔵王町では夏季の入込比率が比較的多いことがわかります。スキー場などを有する蔵王町では、夏季以外の季節の観光客を誘客することが今後の課題といえるでしょう。

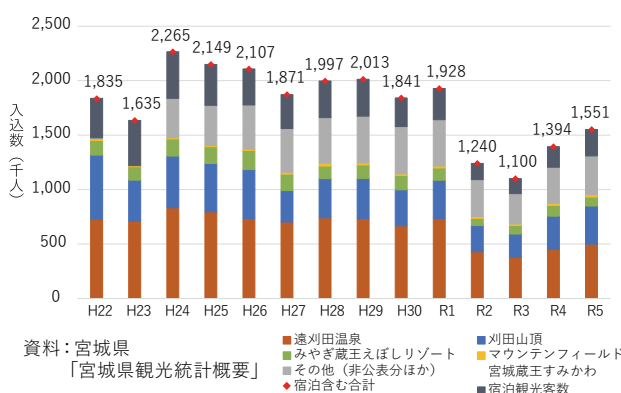
なお、蔵王町の公式ホームページに掲載されている「蔵王町ZAO GUIDE WEB」や「遠刈田温泉MAP」などのサイトは、日本語のほかに英語、中国語(繁体字及び簡体字)、韓国語、タイ語でも表示がされるよう工夫が施

されています。このように、日本人観光客だけでなく、インバウンドの誘客にも尽力しています。

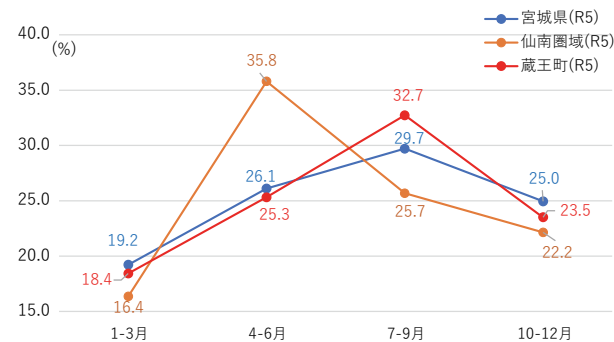
蔵王町では、平成30(2018)年度から令和9(2027)年度までの10年間を実施期間として、「第二次蔵王町観光振興基本計画」を策定しました。本計画では、蔵王町の認知度やイメージ、蔵王町内での消費額、観光資源の詳細やその評価を示したうえでSWOT分析を行い、「**町民一人ひとりが主役となり、町に誇りと愛着を持って観光客をもてなす、世界に名立たる『蔵王』の観光振興まちづくり**」を基本理念としています。その施策として、①知名度を活かした観光まちづくりの強化、②受入れ体制の整備、③戦略的な観光情報の発信、④観光振興推進体制の整備の4つを打ち出しています。コロナの影響により観光業は大きな打撃を受けたものの、コロナの収束に伴い、蔵王町の観光業における今後の更なる飛躍が見込まれます。

[2]特化係数とは、当該市町村における産業別の生産額や従業者数の割合を全国の同様の割合で除した指数のことです。この指数が1を超える産業は、域内での生産物やサービスの金額や量、従業者数が域外の平均値より多く、域外需要を取り込み域外からお金を「稼ぐ力の強い産業」とみることができます。反対に、指数が1を下回る産業は、域内需要が域外に流出し、域外にお金 が 漏れ出る産業、つまり「稼ぐ力の弱い産業」とみることができます。

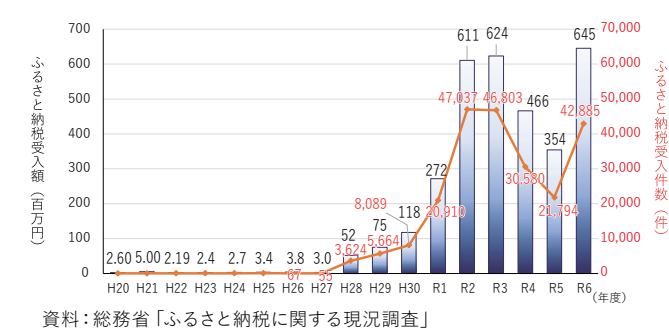
図表7 蔵王町の観光客入込数(施設・種類別)と宿泊観光客数の推移



図表8 四半期別観光客入込比率(令和5年)



図表9 蔵王町ふるさと納税受入額の推移



令和7(2025)年、「蔵王」ジオパーク認定

令和7(2025)年1月、蔵王町の景勝地である御釜を中心とした町全域を含む地域が、日本ジオパークに認定されました。同年6月時点で、日本ジオパーク委員会が認定した日本ジオパークは全国に47地域あり、宮城県関連では、三陸、栗駒山麓に続き3件目となりました。

日本ジオパークとは、過去の地球の活動によって生み出された貴重な景観が大切に守られ、教育や持続可能な開発に活用されている地域のことです。日本ジオパーク委員会から認定を受けると、学術調査や保護活動の推進、観光客の誘致がなされることから、観光客の増加や地域社会の発展などの効果が期待されます。

蔵王町は平成25(2013)年から蔵王ジオパーク構想を推進し、認定を目指してきた経緯があり、今回の認定は町全体の悲願が成就したものです。蔵王町の豊富な観光資源にジオパーク認定が加わったことで、国内はもとより海外からも、「ジオツーリズム」を求めて蔵王町に訪れる観光客の増加を願ってやみません。



写真)左:蔵王ジオパークロゴマーク、中央:蔵王の御釜、右:蔵王ジオパーク内(蔵王町HPより)

4 ふるさと納税 ～令和6年度に最高額更新、蔵王ブランドの魅力発信～

蔵王町におけるふるさと納税受入額は、図表9のように、平成28(2016)年度頃より増加傾向にあり、令和6(2024)年度に過去最高額である6億45百万円を更新しました。寄付件数約42千件を記録し、この件数は県内11位となりました。返礼品には、銘柄豚である「JAPAN X」、蔵王鴨と仙台せり鍋のセット、蔵王町にある専門店の厳選チーズケーキなど、蔵王町ならではの多彩な品が揃っています。寄せられた寄付金は、学校教育の活動と施設環境の整備、観光地「蔵王」の宣伝と環境保全、子どもの育成と子育て環境の整備、高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくり、災害に強いまちづくりなどに使われています。

また、企業版ふるさと納税は、令和7(2025)年度から令和9(2027)年度を計画期間とした「第2期蔵王町まち・ひと・しごと創生推進計画」に基づき、①稼ぐ地域を

つくとともに、安心して働ける地域を創出する事業(新規就農、創業支援事業・観光プロモーション事業等)、②蔵王町との繋がりを築き、蔵王町への新しい人の流れをつくる事業(定住促進事業・友好都市間交流事業等)、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業(幼稚園・こども園の給食無償化等による子育て世帯の経済支援・婚活支援事業・統合中学校建設事業等)、④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる事業(まちづくり交付金による住民活動活性化・公共交通の維持確保・自主防災組織の強化等)の4事業への寄付を積極的に募っています。令和5(2023)年8月には、企業版ふるさと納税の推進に関する契約を七十七銀行と締結したこともふまえ、今後一層の地方創生の促進が期待されます。

5 おわりに ～町政施行70周年で「Zutto Ainiafureru Only one」なまちへ～

蔵王町は今年度、町制施行70周年を迎えました。町民の郷土への更なる愛着や誇りを深める事業を実施しているほか、町内外への魅力発信の契機と捉え、「町制施行70周年記念事業」を実施しています。また、「蔵王町町制施行70周年記念事業基本方針」も策定し、将来像である「ずっと愛にあふれるオンリーワンのまち・ざおう」の実現に向けて、更なる発展と変革への挑戦を感じさせる年になるよう取り組んでいます。さらに、今年3月の町議会での施政方針では、第五次長期総合計画における重点戦略である①ずっと住み続けたい快適な環境づくり(令和9(2027)年3月に開校予定の蔵王中学校計画や「探求の学び」「英語教育特区」「ICT教育」の3本柱によ

る蔵王町独自の教育推進)、②愛にあふれるふるさとづくり(新たな保育園の開園、「質の高い幼児教育、保育の総合的な提供」、「保育の量的拡大・確保、教育・保育の質的向上」、「地域子ども・子育て支援の充実」など)、③オンリーワンの魅力づくり(インバウンド誘致に向けた新たな観光コンテンツとして宮城県が推進する「宮城オルレ蔵王・遠刈田温泉コース」の整備など)における今後の取り組みについて言及しています。

以上の多様な取り組みを通じ、第五次蔵王町長期総合計画においてまちの未来像として掲げられている「Zutto Ainiafureru Only one」に向けたまちづくりの推進がより一層期待されます。